栗原市

平成20年岩手・宮城内陸地震への対応と復興に向けて

宮城県 栗原市長　佐藤　勇

皆さまからのあたたかいご支援に

ありがとう 栗原

皆さまからのあたたかいご支援に
ありがとう 栗原

1.栗原市とは・・・①

○ 平成17年4月1日 栗原郡10町村が合併して誕生

【栗原市までの所要時間】

東京～　新幹線：2時間30分

仙台～　新幹線：　　25分

　　高速道使用：60分

○ 面積：約805km² (東京23区より大きい、宮城県内で最大)

○ 全面積の6割が森林や原野、約2割が田畑

○ 人口：約79,000人 (東京都の約0.6%)

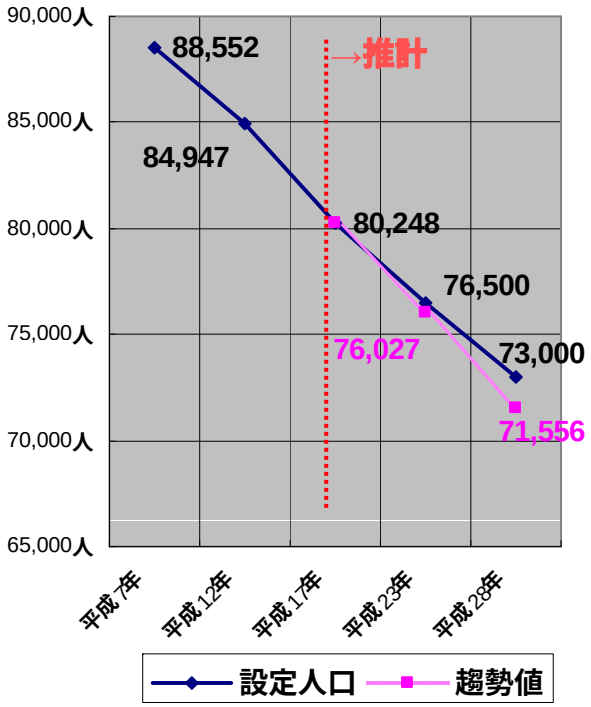
○ 気候：栗駒山に近い北西部は降雪量が多く、大崎平野に連なる南東部では雪が少なく温暖

皆さまからのあたたかいご支援に
ありがとう 栗原

1.栗原市とは・・・②

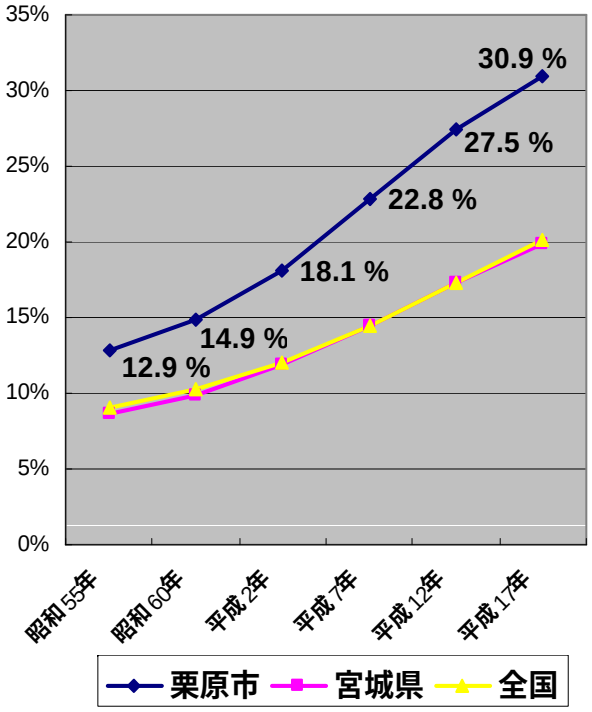
■ 人口の推移

年平均伸び率▲1.1%



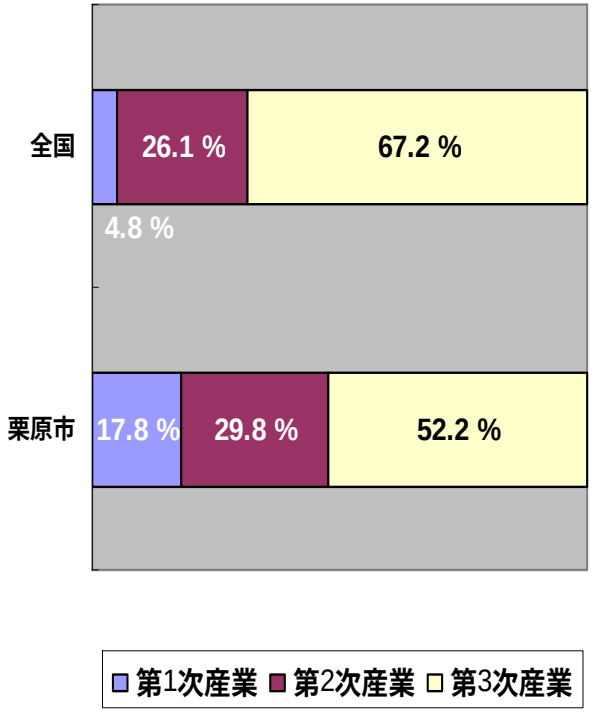
■ 高齢化率

全国や宮城県と比較し
高い水準で推移



■ 産業別就業者

第1次産業従事者の
割合が高い



皆さまからのあたたかいご支援に
ありがとう 栗原

2.被災前の主な防災施策

- 平成19年3月「栗原市総合計画・防災計画」を策定
  「市民が創る〈らしたい栗原」を目指し、安全・安心なまちづくりを推進
- 栗原市洪水・土砂災害ハザードマップ・地震防災マップの作成
  平成20年3月作成。全戸に配布。
- 防災センターの建設
  完成年月日：平成19年4月20日
  庁舎延床面積：3,802.8㎡　　総工費：約18億1千万円
- 危機管理監の配置
  平成17年10月から宮城県警察本部より現役警察官を配置
- 自主防災組織の設立を推進（自助・共助・公助）
  255行政区のうち194行政区、190組織（76.1%）が設置（平成20年6月14日現在）
  （現在　255行政区、252組織　100%が設置）
- 総合防災訓練の実施
  従来より大規模な訓練を10月19日に予定、その準備の最中に被災
- 地域間の災害時相互応援協定の締結
  姉妹都市の東京都あきる野市、県内全市町村、
  宮城・岩手の県境を越えた近隣地域との協定
- 災害時支援協定の締結
  平成19年2月から随時、震災前までに21団体と締結（現在は44団体と締結）
- GIS（統合型地理情報システム）の導入

栗原市防災センター

皆さまからのあたたかいご支援に
ありがとう 栗原

3.緊急対応の状況

■午前08時00分　市内若柳地区での公務に出席

■午前08時43分　地震発生

(栗原市防災計画により震度6弱以上の
地震が発生した場合全職員が登庁)

■午前09時00分　市長市役所到着

■午前09時45分　第1回栗原市災害対策本部会議

■午前10時37分　隣接の登米市消防本部に救急隊の出動要請

6／14のヘリ飛行機数

- 自衛隊　24機
- 防災ヘリ　8機
- 警察ヘリ　7機
- 海上保安庁　7機

ヘリによる救助者数

- 6／14　183名
- 6／15　129名
- 6／16　35名

合計　347名

皆さまからのあたたかいご支援に
ありがとう 栗原

4.避難指示・避難勧告の解除

■ 避難指示・避難勧告解除（H21年5月20日～H22年5月15日　解除）

地区名	避難対象		解　　除		避難指示・勧告継　続	
	世帯数	人　数	世帯数	人　数	世帯数	人　数
栗駒地区	54	140	54	140	0	0
一迫地区	3	12	3	12	0	0
鶯沢地区	13	47	13	47	0	0
金成地区	3	9	3	9	0	0
花山地区	74	188	73	183	1	5
計	147	396	146	391	1	5

皆さまからのあたたかいご支援に
ありがとう 栗原

5.捜索再開の状況

■栗駒　駒の湯温泉（5月21日再開）

泥上バックホウによる土砂掘削

7月1日　行方不明者2名発見

皆さまからのあたたかいご支援に
ありがとう 栗原

5.捜索再開の状況

■花山　白糸の滝つり橋付近（6月8日再開）

6月9日　行方不明者2名発見

6.岩手・宮城内陸地震対応の課題

皆さまからのあたたかいご支援に
ありがとう 栗原

■孤立した集落との通信手段

①災害発生直後

●大きな被害を受け集落が孤立した地域が、山間部であり携帯電話等の電波が弱いエリアであったことから、災害発生直後に正確な現地情報を得ることが困難を極めた。

②避難所開設後

●広い市域内に、複数の避難所が同時に開設された。避難所に避難する市民の数は、昼間と夜間、初日とそれ以降など、時間の経過とともに流動的に推移したことから、被害の最新情報や避難生活に係る情報を、被災者へ均一かつ正確に伝達することが困難であった。

皆さまからのあたたかいご支援に
ありがとう 栗原

6.岩手・宮城内陸地震対応の課題

■対応策

●防災行政無線の活用

◇防災行政無線のデジタル化

●衛星携帯電話の設置

◇災害により孤立する可能性がある集落に所在する公共施設に設置

●災害情報緊急ホットラインシステムの導入

◇災害発生時、早急に情報手段を確保。

◇政府や近隣自治体、避難施設などと正確な情報を共有

◇住民が日常的に携帯し、災害時にも持ち出せるワンセグ携帯電話を活用し、映像による情報交換が可能となるため、被災者等の安心・安全を確保できる。

皆さまからのあたたかいご支援に
ありがとう 栗原

6.岩手・宮城内陸地震対応の課題

災害情報緊急ホットラインシステムについて

●災害発生時の緊急情報通信システムを導入

▲ワンセグ放送を受信している携帯電話

▲避難所の様子

① H20年6月14日
岩手・宮城内陸地震が発生
⇒慶應義塾大学 村井純教授の視察
⇒村井教授からシステム開発の提案

② システムの内容
・地震発生直後の対応としては
⇒衛星を活用したPCによるテレビ電話機能
・避難所に対する情報提供については
⇒エリア限定のワンセグ放送機能

▲村井教授の説明を受ける佐藤市長

③ 全国に先駆け、これらのシステムをパッケージ化。
宮城県沖地震等への対応とする。

総務省
「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」に対して、事業申請中

文部科学省
科学技術振興調整費「**気候変動に対応した新たな社会の創出に向けた社会システムの改革プログラム**」に対して、**慶應義塾大学が事業申請し採択が決定。**

皆さまからのあたたかいご支援に
ありがとう 栗原

6.岩手・宮城内陸地震対応の課題

■ 平成２２年度９．１宮城県総合防災訓練

訓練項目　３０項目

参加団体数　９１団体

参加延べ人数　7,000人

皆さまからのあたたかいご支援に
ありがとう 栗原

6.岩手・宮城内陸地震対応の課題

■ヘリコプターによる情報収集

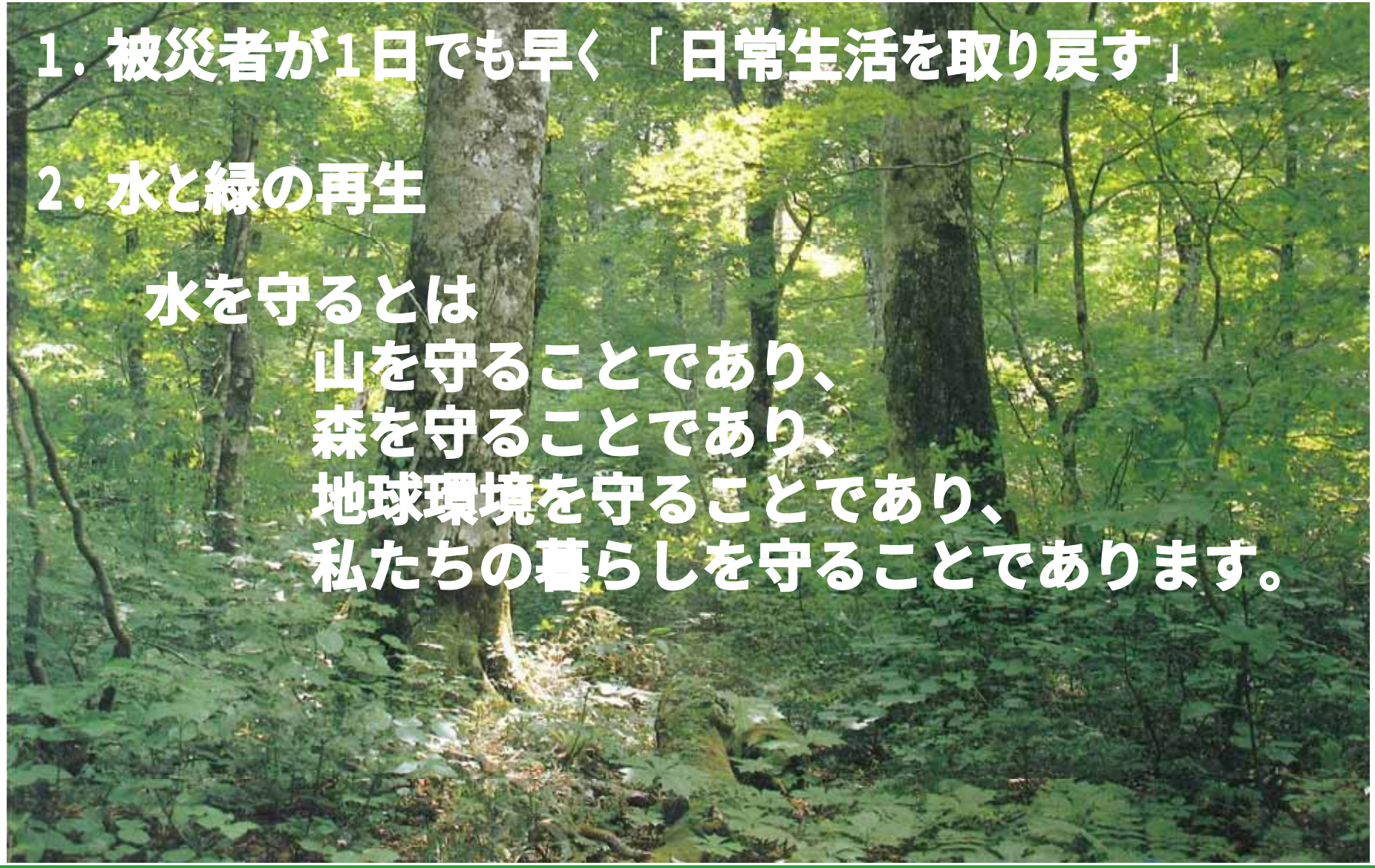
◇航空管制が必要

◇現地災害対策本部の
職員をヘリに同乗させる

◇現地災害対策本部への
映像配信（ヘリテレ）

皆さまからのあたたかいご支援に
ありがとう 栗原

7.復興に向けて目指すもの



1．被災者が1日でも早く「日常生活を取り戻す」

2．水と緑の再生

水を守るとは
山を守ることであり、
森を守ることであり、
地球環境を守ることであり、
私たちの暮らしを守ることであります。

必 ず 復 興 へ . . . ！
ありがとう 栗原